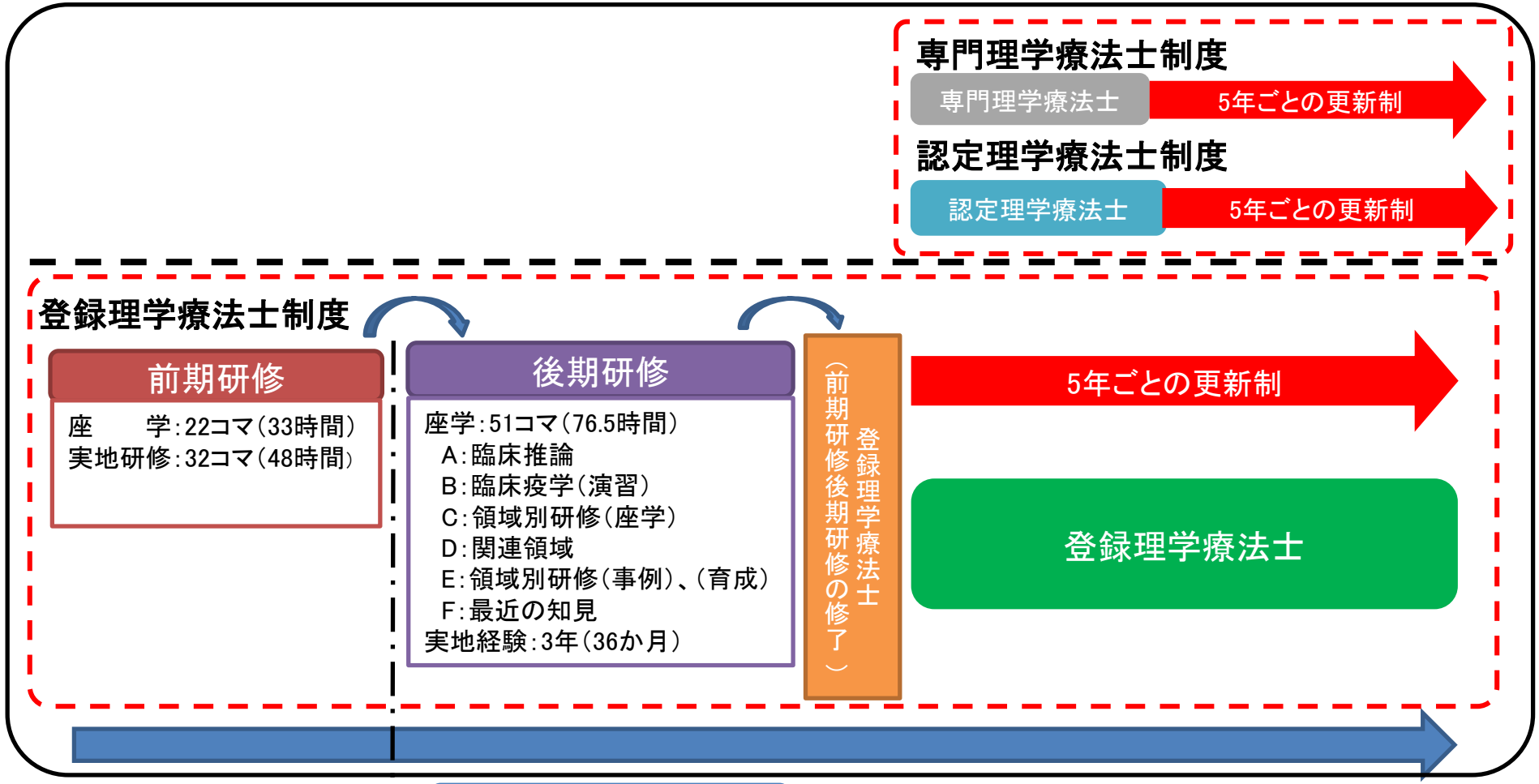
認定理学療法士制度
専門理学療法士制度

2021年10月公開

公益社団法人
日本理学療法士協会
JPTA Japanese Physical Therapy Association

新生涯学習制度のイメージ(全体)

・幅広い総合的な生涯学習(登録理学療法士の更新)を基盤とした認定および専門理学療法士の資格を付与する制度とする。
・様々な領域に従事する会員が持続可能な生涯学習制度とし、働き方に応じた多様性と深化の動機づけとなるキャリア開発プログラムとする。



認定理学療法士・専門理学療法士の考え方

- 認定・専門理学療法士制度構築委員会の答申を踏まえて整理した。
- 階層性ではなく、並列性とする。
- 医療広告ガイドラインを目指すことを一義としない。
- いずれも、より高い専門性を兼ね備えることを目的とする。
- 認定理学療法士は臨床実践分野において秀でている理学療法士とし認定看護師教育を模倣した仕組みとする。
- 専門理学療法士は学問的指向性の高い理学療法士としてリハビリテーション医学会等の専門医制度を模倣した仕組みとする。
- いずれも希少価値の認定資格とし、資格を持っていることに対する価値を上げる設計を構築していく。

認定理学療法士・専門理学療法士の役割

- 臨床実践家としてのモデル
- 当たり前を示し、新規性を見逃さない
- 学問を実践に結び付ける
- ジェネラルと専門性の細分化進化の同時進行をキャリアパスとしていく
- 病院内から地域・社会の中での活動を指向する

認定理学療法士制度

認定理学療法士の取得

〈取得要件〉
各分野でのカリキュラム（40コマ(60時間)以上60コマ(90時間)上限）の受講と、定められた研修会に参加･受講し、試験に合格する

認定理学療法士基準カリキュラム
1. 指定研修　協会シラバス作成、協会運営
2. 臨床認定
   1）必須　協会シラバス作成、教育機関運営
   2）選択　教育機関シラバス作成、教育機関運営
3. 日本理学療法学術研修大会の参加

教育機関を公募
･教育機関、医療機関、等が対象
･認定要件と審査にて教育機関を認定する

脳卒中認定理学療法士教育機関

脳卒中認定理学療法士教育機関

脳卒中認定理学療法士教育機関

pixta.jp - 12600236

認定理学療法士の認定分野

・名称は国民に分かりやすい名称とし、表記は、〇〇認定理学療法士とする。
・旧制度での領域は既存分野とし、現制度でも継続し、制度設計は優先する。
※旧制度における基礎領域のみ廃止（専門理学療法士へ移行）
・新規分野は現制度開始時に全て同時に開始ではなく、順次設計・開始していく。

既存分野	新規分野
脳卒中、脊髄障害、神経筋障害	精神、認知症、パーキンソン
運動器、徒手理学療法、切断、スポーツ理学療法	靭帯損傷、リウマチ・関節痛
循環、呼吸、代謝	閉塞性動脈硬化症、肥満、腎不全、排尿・排泄、妊産婦
発達障害	新生児、脳性麻痺、精神運動発達遅滞、知的障害
物理療法、補装具、疼痛管理	福祉用具、社会福祉
褥瘡・創傷ケア	がん、リンパ浮腫、生活習慣病
	咀嚼・摂食・嚥下、サルコペニア・フレイル
	ICU、急性期、回復期、訪問、通所、障害者施設、放課後デイ
介護予防、健康増進・参加、地域理学療法	国際保健、環境・災害保健
臨床教育、学校教育、管理・運営	医療安全、ケアマネジメント、障害相談、サービス管理責任者
	ｳｨﾒﾝｽﾞ・ﾒﾝｽﾞﾍﾙｽ、緩和ケア、プライマリケア、障がい者スポーツ

認定理学療法士カリキュラム骨子

科目群	コマ数	時間換算	研修形式	備考
指定研修	１２	18時間	eラーニング	協会シラバス作成、協会運営
臨床認定・必須	１５	22.5時間	eラーニング or 対面	協会シラバス作成、教育機関運営
臨床認定・選択	５以上	7.5時間以上	eラーニング or 対面	教育機関シラバス作成、教育機関運営
日本理学療法学術研修大会の参加	８（みなし）	12時間	対面	協会主催、都道府県理学療法士会担当

40コマ（60時間）以上60コマ（90時間）上限とする。

認定理学療法士「指定研修」科目名

科目名	コマ数	科目名	コマ数	科目名	コマ数
医療安全学： 医療倫理	1	チーム医療論 (ﾀｽｸｼﾌﾄ/ｼｪｱ含む)	1	臨床推論	1
医療安全学： 医療安全管理	1	相談・指導	1	運動学習	1
医療安全学： 理学療法管理	1	認定理学療法士の役割 - 科学と政策提言 -	1	労務・職場管理	1
医療安全学： 感染管理	1	医療面接	1	足病変予防の 理学療法 （共通編）	1

認定理学療法士「臨床認定・必須」科目名
（例．脳卒中分野）

科目名	コマ数	科目名	コマ数	科目名	コマ数
正常な構造・機能と疾病の基礎	1	脳卒中後の高次脳機能障害に対する理学療法	1	終末期における理学療法	1
医学的診断と治療介入	1	脳卒中後の活動・参加制限に対する理学療法	1	自立支援や疾病管理の補助具．機器とその活用	1
理学療法介入の意義と理学療法士の役割	1	早期離床と合併症予防のための急性期理学療法	1	発症予防、重症化予防、再発予防	1
疾患によって生じる障害とその評価および予後予測	1	機能回復と日常生活活動自立に向けた回復期理学療法	1	患者・家族教育の意義とその方法	1
脳卒中後の運動機能障害に対する理学療法	1	在宅生活の充実と社会参加促進のための生活期理学療法	1	社会資源の活用	1

専門理学療法士制度

専門理学療法士の取得

学習方法
1. 専門理学療法士指定研修カリキュラムの受講
2. ブロック学会参加
3. 都道府県学会参加
4. 分科学会での発表※

・学術ポイント→定められた原著論文1編

申請
査読付き学術論文
（筆頭者に限る）

口頭試問

・外部有識者を含めた2-3人の面接官による各受験者10-15分程度
・面接官による口頭試問の目的は、申請された専門分野に関する資質を確認することであり、論文の審査をするものではない。

専門理学療法士取得要件を満たし、論文の口頭試問に合格した会員に専門理学療法士認定証を発行

※分科学会での発表とは、日本理学療法学会連合の法人会員もしくは学術団体会員主催の学術大会での発表を指す

「日本理学療法士協会専門理学療法士認定証」を発行

専門理学療法士カリキュラム骨子

科目群	コマ数	時間換算	研修形式	備考
指定研修	１２	18時間	eラーニング	協会シラバス作成、協会運営
ブロック学会参加	４５（みなし）	69.5時間	対面	オンライン形式を考慮
都道府県学会参加			対面	
分科学会での発表※			対面	

57コマ（87.5時間）

※分科学会での発表とは、日本理学療法学会連合の法人会員もしくは学術団体会員主催の学術大会での発表を指す

専門理学療法士の認定分野

- 名称は国民にも分かりやすい名称とし、表記は、〇〇専門理学療法士とする。
- 認定・専門理学療法士制度構築委員会の答申に準じて、現行分野を新分野に移行する。
- 新制度の新分野では、細分化・統合は行わず、新規分野を順次設計・開始を検討する。

現行分野	新分野
基礎	基礎理学療法
神経	神経理学療法
	小児理学療法
運動器	運動器理学療法
	スポーツ理学療法
内部障害	心血管理学療法
	呼吸理学療法
	糖尿病理学療法
生活環境支援	地域理学療法
	予防理学療法
	支援工学理学療法
物理療法	物理療法
教育管理	理学療法教育

認定・専門理学療法士の更新

認定理学療法士･専門理学療法士の更新

- 5年毎に更新制とし、取得期間の最終年度に更新申請を行うことが必要となる。なお、一定の条件で更新延長を設ける。6回目以降の更新要件は緩和する。
- 登録理学療法士を取得していること（登録理学療法士失効者は該当しない）。したがって、登録理学療法士の更新は別に必要となる。
- 「認定理学療法士・専門理学療法士更新に関わる履修点数基準」は別途定め、研修時間を点数に換算する仕組みを導入する。

「認定理学療法士・専門理学療法士更新」の基本構造

以下の1から3の何れも満たすこと

1．下記のいずれかの活動を１つ行うこと(2. の100点には使用できない)
   - 都道府県理学療法士会学術雑誌への投稿（筆頭著者に限る）
   - ブロック主催学会での一般発表の筆頭演者
   - 都道府県理学療法士学会での一般発表の筆頭演者

2．維持・研鑽のための活動における100点の取得(点数基準は別に定める)

3．更新時研修（集合研修1日程度で、eラーニングも準備を想定）

認定・専門理学療法士　更新に関わる点数基準

大項目	項目			選択・必須	履修点数	備考
0. 必須要件	0-1)	都道府県士会の学術大会での一般発表（指定演題含む）の筆頭演者		必須（いずれか一つ	-	
	0-2)	ブロック主催の学術大会での一般発表（指定演題含む）の筆頭演者			-	
	0-3)	都道府県士会学術雑誌への投稿（筆頭著者に限る）			-	
1.学会参加	1-1)	都道府県士会、ブロック 、日本理学療法学会連合の法人会員もしくは学術団体会員が主催の学術大会		選択	最小単位学習時間 30分＝0.5点 例： 1日（９時～17時）の場合： 8時間＝8点	点数は学習時間を表します。
2.講習会・研修会の受講	2-1)	日本理学療法学術研修大会		選択		
	2-2)	協会主催の研修会		選択		
	2-3)	都道府県士会、ブロック主催の研修会・学術研修大会、理学療法士講習会		選択		
	2-4)	協会のe-ラーニング		選択		
3.論文・著作	協会で指定した英文雑誌A	3-1)	筆頭著者	選択	80	いずれの分野でも使用可
	協会で指定した英文雑誌B	3-2)	筆頭著者	選択	60	
	協会で指定した和文雑誌	3-3)	筆頭著者	選択	40	
4.学会での発表等	4-1)	都道府県士会、ブロック、日本理学療法学会連合の法人会員もしくは学術団体会員主催の学術大会での一般発表（指定演題を含む）の筆頭演者		選択	20	
	4-2)	都道府県士会、ブロック、日本理学療法学会連合の法人会員もしくは学術団体会員主催の学術大会での講演講師・シンポジスト・パネリスト		選択	20	
	4-3)	都道府県士会、ブロック、日本理学療法学会連合の法人会員もしくは学術団体会員主催の学術大会での座長・司会		選択	10	
	4-4)	都道府県士会、ブロック、日本理学療法学会連合の法人会員もしくは学術団体会員主催の学術大会での演題査読		選択	5	4-4)担当演題まとめて1件とする。学会終了日が点数取得日となる。
5.講習会・研修会の講師等	5-1)	協会、都道府県士会、ブロック主催の研修会のシンポジスト・パネリスト・講師（学術研修大会含む） 認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関の講師		選択	20	5-1)補助講師も含む
	5-2)	協会、都道府県士会、ブロック主催の研修会・症例検討会での座長		選択	10	

＊協会で指定した英文雑誌A
専門・認定更新（新規）の申請年の前年公表されたWeb of Science Core Collectionに収載され、インパクトファクターが付与されている雑誌とする。

＊協会が指定した英文雑誌B
専門・認定更新（新規）の申請年の前年にインパクトファクターが付与されていないものの、国際的な論文データベースであるPubmed、Web of Science、Scopus、Directory of Open Access Journalsの
いずれかに収載されている雑誌とする。
＊協会が指定した和文雑誌
①都道府県士会学術雑誌（ただし、必須要件に申請した論文は除く）
②日本理学療法学会連合、その法人会員もしくは学術団体会員が発刊する学術雑誌
③医中誌Webに収載されている雑誌

＊専門理学療法士新規申請時の学術論文
新規申請時の学術論文は、「英文雑誌A」「英文雑誌B」「和文雑誌」のいずれかに該当する原著論文で査読付きであるものとする。

＊学術大会とは、大会長がおかれ、一般演題を募集しているものとする
＊学術研修大会とは、講習会・研修会の集合体を指す。

＊研修会は、協会、都道府県士会、ブロック主催のものに限る。共催は含まない。

＊認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関の講師
１つの教育機関で開講される同一分野の講義を複数コマ担当した場合も、同一年度であれば一律20点とする。
ただし、同一年度であっても、複数の教育機関で講師を行う、また、１つの教育機関で複数分野の講師を行う場合は、それぞれに点数対象となる。

専門理学療法士新規申請時の論文掲載済みの場合と未掲載である論文の場合の提出内容の違いについて
①掲載済み論文の場合
・掲載論文の写し（全文）
②掲載が決定しており、未掲載である論文の場合
・採択が確認できる文書の写し（採択通知書や採択通知メール）
・掲載前の最終原稿の写し（全文）※著者順が確認できること